

卯月

〔うづき〕令和7年4月

卯の花が随所で咲き乱れるので、卯月または卯の花月と言いました。

発行：北海道神社庁一區教化委員会

今の若い者はなどと、

口はばたきことは申すまじ

山本五十六・書簡

今月のことば

今の若い者はなどと、

口はばたきことは申すまじ

山本五十六・書簡

大東亜戦争の勇将・山本五十六元帥は、部下を指導するに当って「今の若い者は」などといった、若い者を信用しない言葉は決して使わなかったといはれてゐる。

自分にも若い時代があった。若い者もいづれは、自分と同様の年令に達する時がくる。頭脳の働くと、経験とは、いつの日には達するものである。山本元帥の考へは、おそらくさういふことであつたにちがひない。

「信用」の二字がこのとき物をいふのである。若い者は知力・体力において、努力次第等で伸びは早い。その若い者の努力を信ずることが、実は大切である。そして若い者に努力を教へるがよい。

(統神道百言 財団法人神道文化会編より抜粋)

二十四節気

【清明せいめい】…四日

旧暦三月辰の月の正節で、このころになると、春気玲瓏として草木の花が咲き初め、万物に晴明の気があふれてくるという意味です。たらしませず。春の季節の最後の節気です。

六曜・選日

【六曜】…諸事急ぐことによし、午後よりわるし
 【先勝】…朝夕よし、正午わるし、葬式を忌む
 【友引】…諸事静かなることによし、午後大吉
 【先負】…諸事静かなることによし、午後大吉
 【凶】…万事凶、患えは長びくおそれあり
 【大安】…何事をするのにも吉の日、大吉日
 【赤口】…諸事油断すべからず、正午のみ吉
 【選日の吉凶】
 【三隣亡】…三隣亡日、普請始め、棟上大吉日
 【三りんぼう】…出資・投資・購入、新規事業開始
 【一粒万倍日】…結婚は吉、借る、離別は凶

七十二候《4月》

穀雨

初候・玄鳥至(げんちうし)いたる
 ツバメが南から飛来する
 次候・鶉雁北(こうがんきたす)
 ガンが北へ渡去する
 末候・虹始見(にじはじめてあらわる)
 雨の後に虹が出始める

清明

初候・酸欠生(あしはじめてしやうせい)
 草が芽を吹き始める
 次候・鶉雁北(こうがんきたす)
 ガンが北へ渡去する
 末候・虹始見(にじはじめてあらわる)
 雨の後に虹が出始める

※七十二候とは二十四節気の各節気をさらに三つに分けて、一年を七十二に分けたものをいいます。季節の移ろいを気象や動植物の成長・行動などに託して表現したものです。

「鎮守の杜」

「日の大神の恵みを得て」

植物は、水と太陽のエネルギーを利用して光合成によって酸素と炭水化物を作り出します。

地上の生物はこの恩恵なしでは生きていけません。そしてたくさんの植物が育っている森は、雨水を蓄え、蓄えられた水は森の養分を十分に吸収し川から海へと流れ込み、海藻が茂り魚たちの生きている場が創られています。まさに森は、天と地を結び太陽と水によって命を育む源です。私たちの祖先は、そのことを体験の中から学び、自然を神と崇めてきました。

昔から神社の杜は「鎮守の杜」といわれ、神聖なものとして大切に保護してきました。境内は神々が宿り鎮まる杜であり、いろいろな意味で私たちに恵みを与えてくれる森なのです。自然の中に神々を感じる心を絶やすことなく「森」を守り、家族そろって「杜」へ参拝してみましょ。

安産祈願 4月の戌の日

11日(金)
23日(水)

*戌の日以外でも安産祈願のご奉仕をしております。神社にお問い合わせください。

《29日 昭和の日》

激動の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代を顧み、国の将来に思いを致す日です。

祝祭日には国旗を掲げましょ

季節のまつり

入学

決意も新たに「氏神さま参り」

入学や就職、新学年、会社の年度始めなど生活環境が変わる時も、人生の大きな節目といえます。新しい何かが始まる躍動の月の始めに、氏神さまにお参りをし、今後のさらなる御加護をいただき、無事に過ごせるようお願いいたします。



十三参

四月十三日

大人への入り口に知恵や福を

数え年で十三歳になった男女が、福徳と知恵が授かるようにお参りするならわしで、「知恵もうで」とか「知恵もらい」とも言われています。参拝の帰り道に後ろをふり向くと、授かった知恵を落とすという言い伝えもあります。十三参りは、もともと女の子のお祝いとして二百年ほど前に始まりましたが、十三歳という年齢は、男女共に肉体的にも精神的にも大人への変換期にあたり、少し不安定な時期でもあるため、親子ともども心身の健康をお願ひいたします。

関西地方ではさかんに行なわれてい

卯月八日について

四月八日は花祭り、お釈迦さまの誕生日だといわれて甘茶をかける風習は広く行きたつてい

る。しかし全国のこの日の習俗を見てみると、神祭りの日でもあることに気がつく。関東の霊峰といわれる筑波山、赤城山、三峯山などの神社では、この日に例大祭が執り行われる。この日の筑波山神社の「御座替祭(おざかわりさい)」や、静岡浅間神社の四月三日の「昇り祭降り祭」のように、山の神が里に下られて田の神になるという信仰が全国的にある。また全国の神社の春祭りも、これとおおよそ趣きと同じくするものといえてよいと考えられる。卯月八日には福島県の東南部では、この日を神の日だといって田に入らない。また静岡県原野には、この日に山の神を祭るところがある。また「千早振る卯月八日は吉日よ神さげ虫の成敗ぞする」と紙に書いて虫よけのまじないにす

公明正大

隠し立てをしな派
いで、正しく立派なさま。

桜



参考文献

『くらしと祭り百話』小野迪夫(神社新報社)